

環境建設工学科 在学生の声



佐川 奈緒（さがわ なお）さん

出身県・高校： 徳島県・城南高校

コース：土木工学コース

学年：修士1回生

将来のキャリアパスについて

現在ははっきりとした就職希望先は決まっていますが、研究職に興味を持っています。研究室に配属されるまでは、土木関係での就職先で研究職というイメージが無かったため、今まではあまり視野に入れていませんでした。しかし、4回生になって研究室に配属されてから海洋環境に関する研究を行ったことで、将来は専門性を高めて研究を行いたいと感じるようになりました。

この一年は修士研究に取り組みつつ、研究所や建設会社の研究職も視野に入れて就職先を絞っていきたいと考えています。

大学生のライフスタイル

私は学部 1 回生の頃からスカッシュラケット同好会に所属しています。現在はスカッシュ自体への参加は少ないですが、予定が合えば飲み会に参加しています。また、理系女子が集うイベントや交流を深める「サイエンスひめこ」にも所属しています。

日常生活は授業と研究を並行して行っています。授業は学部の頃よりも専門的で、現地調査を行う授業がありとても楽しいです。

研究のテーマ

私は卒業研究で広島湾・安芸灘におけるマイクロプラスチックの動態推定に取り組みました。マイクロプラスチックとは 0.3~5mm の大きさに微細化したプラスチックのことで、それらが海洋環境中に流出し、生物の誤飲や有害物質の吸着による生態系への影響が懸念されています。この研究は世界的に見ても最先端の研究であるため、確立されていないこと（調査方法や解析方法など）に直面したりするなど困難

が多い反面、今まで得られていない結果が得られたときには達成感を得ることができました。

修士研究では卒論の内容をさらに発展させるため、プログラミングの勉強を取り入れることで研究の幅を広げています。

環建ライフの良いところ

研究テーマが海洋環境に関することであるため、頻繁に観測に行きます。私の研究では、海岸の砂の採取やニューストンネットによる海面の浮遊物の採取（写真左）、スミス・マッキンタイヤ式採泥器による海底泥の採取（写真右）を行いました。



海面・海底では一泊二日で森漁港（伊予市）から広島湾奥部を船で往復したりしました。初めて船の観測に行った際は船酔いをしました

が、酔い止め薬を飲んでからは船酔いせず観測を終えるようになりました。観測に行く授業や研究室は多くないので、貴重な経験だと思います。

受験生の皆さんにメッセージ

環境建設工学科と聞くと、道路や橋梁をイメージすると思います。しかし、私たちの研究室のように環境面に着目した研究分野があります。授業にもコンクリートや力学だけでなく環境系や生態系も学べる授業があり、幅広い内容を学べる学科で面白いと思います。